

「作業学習（家庭班）・学校間交流」学習指導案

日 時：平成31年7月10日（水）
2、3校時（9:50～11:25）
場 所：大平特別支援学校（中学部）調理室
対象生徒：（本校）男子4名、女子2名、計6名
（中学校）男子4名、女子2名、計6名
合計12名
授 業 者：島袋 真喜子 比嘉 弘子
玉城 理恵 前泊 一則
研究主事：赤嶺 加奈江

I 研究テーマ

社会参加の意欲につながる自己有用感を育む交流及び共同学習の工夫
—特別支援学校の生徒の「主体的な活動」「協働的な活動」「他者評価」の場面を取り入れて—

II 研究仮説

交流及び共同学習で本校の生徒の「主体的な活動」「協働的な活動」「他者評価」の場面を取り入れることで、自己有用感を高め、将来地域に出て働きたいという社会参加の意欲を育むことができるであろう。

III 研究テーマとの関わり

1 生徒観

中学部2年生の家庭班（作業学習）は、「自ら考え行動する力や社会性の向上を図り、勤労観を育む」ためのA類型の生徒3名と「基本的生活習慣の定着を図り、社会性を高め、勤労観を育む」ためのB類型の生徒3名の合計6名で構成されている。作業学習で得意な作業、好きな作業はあるかの質問に対して、「とてもある」4名、「少しある」2名であり、作業に得意意識を持っている生徒が多く、製造、販売、接客の練習に意欲的に取り組んでいる。作業の流れを理解し落ち着いて参加する生徒もいるが、中には3時間連続の授業参加は難しく、場面を変えて気持ちを落ち着けることが必要な生徒もあり、実態は様々である。

交流は楽しみかの質問に対して「とてもそう思う」3人、「そう思う」2人、「どちらともいえない」は1人であった。「仲西中の生徒と一緒にできるか不安」とする声もあり、交流に多少の不安を持ちながらも概ね楽しみにしている様子が見える。

2 題材観

作業学習は、作業活動を通して「達成感とともに、自信と働く意欲を育てる」ことを目標に職業生活や社会自立に必要な事柄を総合的に学習している。本時は、「菓子調理・販売」の「菓子調理」を通して中学生と交流を行うことで生徒の自己有用感を育み、将来社会に出て働きたいという社会参加の意欲につなげたい。また、作業学習は、「見通しを持って繰り返し行う課題学習により達成感を味わい、情緒の安定を図る」ことも目標としていることから、交流の場面においても生徒が主体的な姿を発揮できると考える。

ほとんどの生徒が作業に得意意識を持っていることから、交流の場面でも、生徒が主体的に取り組める可能性が高いと考える。

3 指導観

作業工程においては、具体物やカードを用いて確認し、見通しを持って作業に取り組んでいる。
これまで、菓子調理を通して、道具の準備、調理、片付け、販売、清掃といった一連の仕事の流れを繰り返し行い、作業に見通しが持てるようになってきた。菓子調理は、最初はペアで調理することから、次の段階として一人で最後まで調理できることを目標に取り組んできた。交流では、中学生とペアで取り組み中学生に教えることや手本を見せるといった「主体的な活動」「協働的な活動」とすることをねらいとしている。また、授業の振り返りでは、中学生からいいところカードをもらうことで「他者評価」の場面とし、自己有用感の育成につなげたい。

IV 題材名 「クッキーを一緒に作ろう」

V 題材の目標

- (1) 絵カードなどを使い、主体的に道具の準備や菓子の調理ができる。
- (2) 販売やカフェを通して良好な接客態度について知る。
- (3) 販売、カフェ、交流などの人との関わりを通して自己有用感を育む。

VI 指導計画 総授業時数 28 時間(週 1 回、3 時間の連続した授業)

時 数	授業内容	指導上の留意点
24	クッキーづくり クッキー販売 配膳練習 カフェ（接客練習）	・クッキーづくりは、生徒が、授業の流れを見通して動ける様、流れを繰り返している。クッキーづくりは一人で作ることを目標に、ペア活動から段階的に取り組む。 ・クッキーづくりに「販売」「配膳練習」「カフェ（接客）」を日替わりで組み合わせて人との関わり方も身につけることができるようにする。
1	事前学習	・今回の交流の流れに見通しを持たせる。 ・仲西中学校からのビデオレターをみることで、交流に興味・関心を持たせる。
2 (本時)	交流	・本校生徒が「主体的な活動」場面、「協働的な活動」場面、「他者評価」の場面を取り入れた授業となるようにする。
1	事後学習	・写真や動画で交流の様子を振り返り、交流の感想をまとめることができるようにする。ビデオレターを作成する。

VII 本時の指導

1 本時の目標

- (1) それぞれのやり方で中学生に作業を教えることができる（手本を見せることができる）。
- (2) それぞれの関わり方で中学生と一緒に作業することができる。
- (3) 中学生に「どうぞ」と飲み物を出すことができる。
- (4) 中学生にメッセージカードを渡すことができる。

2 自己有用感を高めるための個人目標（交流シートより）

ポイントAよさを見てもらえる場面（生徒一人ずつでも、全体としてでも）

- 1 段階： 作業に取り組んでいる姿を見せる
- 2 段階： 生き活きと作業しているところを見せる（主体的に）
- 3 段階： 仲西中学校の生徒に作業の方法について教える（作業の手本となる）

ポイントB一緒に作業をする場面

- 1 段階：関わりはなくても、同じ場所で作業に参加する
 2 段階：一緒に楽しみながら参加をする
 3 段階：一緒に協力しながら参加をする

	A良さを見てもらえる場面		B一緒に作業する場面		得意な作業など	苦手なことや 留意点
	目標	実際の行動	目標	実際の行動		
A	3：教える	1・2・3	2：楽しみながら	1・2・3	号令 発表	思ったことを口に出してしまう 静かな環境にする
B	3：教える	1・2・3	3：協力しながら	1・2・3	手順を理解し丁寧に作業 責任感	わからないことを質問する
C	2：生き生き作業	1・2・3	1：同じ場で作業	1・2・3	一人で計量 クッキーの目、口	行動を否定されると混乱
D	1：取り組んでいる姿	1・2・3	1：同じ場で作業	1・2・3	教師に励まされながら、出来上りを楽しみに作業	長い作業 疲れるとパニック こまめに休憩
E	3：教える	1・2・3	3：協力しながら	1・2・3	丁寧に作業 先生と計量 自分で仕事を探す	発表
F	2：生き生き作業	1・2・3	1：同じ場で作業	1・2・3	教師に励まされながら、仕上がりを楽しみに頑張る	教師と一緒にいると安心する

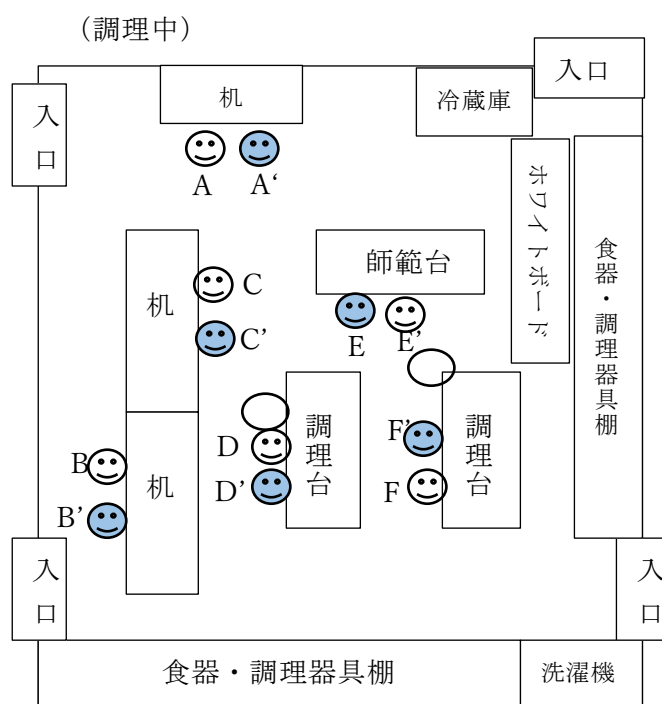
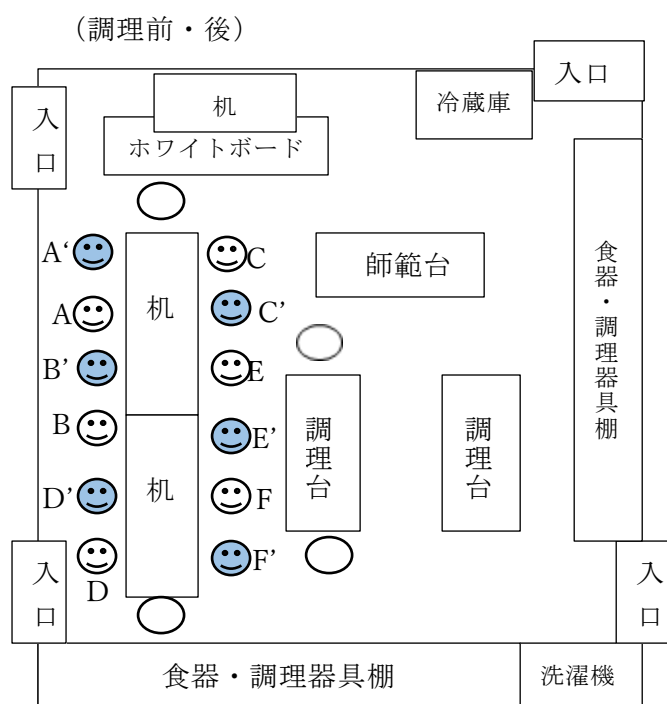
3 授業の流れとポイント場面、教師の支援（交流シートより）

流れ	ポイント場面		教師の支援	
	A：良さを見てもらえる場面	B：一緒に活動する場面	大平	仲西
はじめに（5分） 初めの挨拶 活動内容確認 活動ペア確認 ペアで自己紹介	生徒A			
活動（60分） クッキーづくり 作り方説明 道具の準備 調理、片付け 休憩 配膳（大平）	生徒A B F 全員 全員 全員	 全員 全員	大平の生徒の情緒の安定を図りながら活動を支援する。 仲西中学校の生徒へ関わり方についてアドバイスする。	関わりが難しそうな生徒がいたら、一緒に関わって様子を見る。大平の職員に相談する。

試食		全員		
カード記入 (10 分) カード交換			カードに貼る言葉 (シール) を選ばせる。かける生徒は自分で書く。作ったものと一緒にプレゼントする準備をする。	カードの内容を一緒に考える。一言でもいいので、いいと所を書くようにする。
おわりに (10 分) 感想発表 まとめ 終わりの挨拶	生徒 A		ハイタッチであいさつが出来るように声掛けをする。	

4 教室配置図及び教具

😊大平生徒、😄仲西中生徒、○大平職員、👤仲西中職員



5 授業者の評価

授業者の評価 ◎ 適切 ○ やや適切 △ 改善が必要		
項目	評価	備考
① 題材と研究テーマとの関わりは明確であったか。		
② 本時の目標設定は適切であったか。 (1) それぞれのやり方で中学生に作業を教えることができる（手本を見せることができる）。		
(2) それぞれの関わり方で中学生と一緒に作業することができる。		
(3) 中学生に「どうぞ」と飲み物を出すことができる。		
(4) 中学生にメッセージカードを渡すことができる。		
③ 授業の展開、また教師の問いかけはどうだったか。		
④ 生徒への支援は適切であったか。		
⑤ 生徒の実態に合った題材だったか。		
⑥ 教材・教具は適切だったか。		
⑦ 時間配分は適切だったか。		